

## 令和6年度 上京区地域保健推進協議会 概要

日 時 令和6年9月26日(木) 午後2時から午後3時30分  
場 所 上京区総合庁舎 4階大会議室2  
出席委員 飯田委員、田中委員、松尾委員、小林委員、小川委員、原田委員、  
海野委員(代理)、尾崎委員、小笠原委員、金築委員、関委員、  
湯浅委員、池田委員、田中委員

<開会挨拶> 西田保健センター次長 (小石保健センター長代理)

<議題(1) 上京保健センター事業について>

- ・健康づくり事業・感染症について (健康長寿推進課 荒木担当課長)
- ・精神保健福祉・難病保健事業について (障害保健福祉課 西村課長)
- ・母子保健福祉事業について (子どもはぐくみ室 浅堀課長)

<議題(2) 意見交換>

田中委員：

フレイル予防については、しっかり栄養をとり体を動かし口の中を綺麗にして社会とつながりを持つことが大事だと思うが、要介護ではない元気な方が社会とつながりを持つ機会が限られている。要介護以外の方でも社会とつながりをもてる事業をもっと考えていただければと思う。

禁煙対策も大事だがアルコール健康被害の問題もある。日本人は遺伝的に約半数がアルコールに弱い、それを知らずにいると急性アルコール中毒になったり癌になったりするため日本人の特性にあったアルコール健康被害対策を考えていただきたい。

難病について、意思伝達装置はとても大事で私の患者もよく使っている。西村課長からの説明のとおり、早い時期にケアマネージャーや保健師からアプローチしていただいて早期に使えるように練習をしていくことが大事だと思う。京都市重症難病患者一時入院事業は最近あまり使われなくなっているが私はとても良い制度だと思っている。制度が周知されておらず、その道のプロであるケアマネージャーが御存知でないこともある。

湯浅委員：

上京区では老人福祉員学区代表者連絡会議を年5回開いて意見交換をする中で、孤立している人にどう声掛けをするかについて熱心に議論をし、介護につなげていっている。早くて症状の軽い段階から要介護認定を受けているはずな

のに、要介護度の高い人が上京区に多いというのが不思議である。

荒木担当課長：

フレイルになる前の若い世代にも意識をもっていただきたいし、田中委員から意見のあった退職された年代へのアプローチは課題だと考えている。壮年期から退職世代の方も地域とのつながりを持てるような活動、例えば男の料理教室等を考えたりはしているので事業に取り入れていきたいと思う。

湯浅委員から話のあった要介護度の高い方が多いという事実は、統計上わかったことであり、理由はわからないが、包括支援センターや民生委員の方の意見をいただきながら地域の実情を知って現状を探りたいと考えている。

西村課長：

意思伝達装置の貸し出しについては早い段階で利用いただけるようにしていきたい。レスパイト入院についても、ケアマネージャーに難病の方とそうでない方とで制度が違うということがなかなか周知できていないように思うので、難病独自の制度として周知をしっかりとしていきたい。

関委員：

人生 100 年時代に突入し、会社を退職してから 30 年という長い期間をいかに過ごすかが重要になってきている。滋賀県の國松元知事が 100 歳大学を構想し、人生後半の高齢者に対しての義務教育を提唱されて、栗東市では今実際に実施されている。100 歳大学は一団体に実施できるものではないため、行政と一つになっていかないといけない。11 月 4 日にそれをテーマにした講演を待賢小学校でさせていただくので、それをきっかけに 100 歳大学を具体的にしていきたい。皆さんの御協力をいただければと思う。

松尾委員：

横のラインでつながる機会が少ないと感じる。上京区内に住んでいるが、高齢化が進んでおりコロナ後に地蔵盆がない等でつながりがなくなってきている上にマンションが建っていくと町がなくなっていく感じである。一番小さなネットワークの町がつぶれていくので、こういった場で横のつながりができ情報交換ができればいいと思う。私の母もそうだったが、外出しなくなりしゃべらなくなると、フレイルに陥る。料理教室等様々な事業で皆さんの力を借りて上京を盛り上げられたらと思う。

最後に飯田委員より、上京東部医師会主催の市民公開講座「生活習慣病を考える会」（11 月 14 日講演）の紹介あり。